

令和7年第一回定例議会 村長所信表明

【はじめに】

令和6年は元旦に能登半島沖地震が発生し、8月には南海トラフ地震臨時情報が発表されるなど、災害の脅威にさらされた一年でした。最近でも報道等であるように、カルフォルニア州や椿サミットで交流のある岩手県大船渡市でも大規模な山林火災が発生しており、世界各地で自然災害に見舞われております。被災されました方々には、改めてお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を願うばかりです。

このように、災害はいつ、どこで起きても不思議ではない状況にあり、将来の災害に対する備えは、出来得る限り進めていくことが肝要と考えています。

利島の将来展望を測る指標の一つとして、人口が挙げられます。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、利島村の人口は320人程で推移していた現代から徐々に減少し、2050年代にはおよそ250人程度にまで減少するといった結果が発表されています。あくまで推計値ではあるものの、このまま傍観しているだけでは減少の一途を辿る事は想像に難くはないと思います。

そこで先の村長選挙で掲げた「すべては島の為に」をスローガンに、これまで「人の利・土地の利・自然の利」を活かしながら、持続可能な利島を目指して、眼前の課題や負担を先送りにすることがないよう、全身全霊で進めてきました。

今後、持続可能な利島をより実現に近づけていくためには、本村の教育大綱である“人づくりが島づくり”大綱でも掲げているとおり、この島に住まうひとり一人が「利島を良くする自燃性の人」、即ち、当事者の意識を持ち、自立を目指し続け、一体感を自ら生み出すことを志向していくことが、一層重要になると信じています。

島全体でこのような機運を醸成しながら、住民の皆様と手を携えて、新年度もあらゆる課題に果敢に挑んでいきます。是非とも、議員の皆様をはじめ、住民の皆様にはより一層のご理解とご協力をお願いしたいと思います。

【基本方針の柱】

次に、3つの基本方針を申し上げます。

私の政策を推し進めていく上で骨格となる以下の3つの項目は、今後の利島の発展には欠かせないものであり、全ての施策の基本となっています。

①将来世代に対して持続可能な島づくり

幾久しく、利島が栄え続けていくためには、村民憲章に掲げる「生き生きとした活力のある島 自立する村 利島」の具現化を図っていくことが、重要です。そのためにも、利島を取り巻く課題の解消に向けて、人材の育成や生活を支える基盤整備などに取り組み、持続可能な島づくりを着実に進めていきます。

②健全な行財政運営

令和7年度当初予算案は今年度に引き続き、一般会計で20億円超を計上いたしま

した。

村税収入に乏しい本村においては、大変厳しい財政運営を迫られておりますが、島の未来を担う人材の育成や島民生活に必要なインフラ整備など、持続可能な利島の実現に必要な将来への投資を行っていきます。

その着実な推進のためには、国や都の交付金・補助金等を積極的に確保していくとともに、財源を有効活用していくためにも、より一層、執行管理に努めていきます。

③公正・公平な村政運営

これまで小さな島であるが故の許容で成り立っていた部分が多分にあり、それらがこの島にとって良い部分でも、悪い部分でもあったかと思えます。

今や、人口の8割以上が移住者の方で占める本村において、島内を挙げて、より公正で公平な運営が求められている中、時には柔軟な対応を行いながらも、社会規範に沿った村政運営に取り組んでいきます。

そのためには、村政の現場を支える職員の養成は重要であり、息の長い取組となります。そこで、「利島村職員人材育成基本方針」に則り、様々な研修の提供等により、資質向上を図り、その成果を住民サービスに寄与できるよう、今後も継続的に人材を育成していきます。

【重要施策の方針】

次に、令和7年度の重要施策の方針について申し上げます。

①教育改革

まず、私の公約の一丁目一番地である教育改革です。

島の未来を担う、子どもたちの主体的な学びを推進するためには、その環境の整備も大切な要素の一つです。

そこで、利島小中学校は今年度から義務教育学校に移行しましたが、今後も、そのメリットを生かし、前期・後期課程の9年間を見据えて、島の環境や特色に合わせた特徴的な教育を実現する利島独自のカリキュラムが編成されます。

その効果的なカリキュラムの編成に当たっては、教師の能力や主体性が重要になっていきます。

そこで、“人づくりが島づくり”大綱で掲げる「教師が育つ島」を念頭に、従来の聴講中心の研修を改めて、教師の求めに応じたワークショップ形式のミニ研修を行うとともに、有識者や先進的な実践者を島にお招きし、島の教師と一緒にこれからの教育を考えるイベントも開催します。

加えて、教師が授業の企画や実施に際して、様々な専門家による伴走支援を受けられる取組も実施し、教師の主体的な授業改善を促進していきます。

児童生徒に向けては、英語教育の充実化を図り、メタバース環境を活用したマンツーマン英会話教室や、オンラインでの海外現地との交流などを行い、これらの成果を生かして、8年生でのオーストラリア海外派遣を今まで以上に実りのあるものとなるようにしていきます。

このように、教師が自ら研鑽し能力を高め、カリキュラムの編成や授業の改善に

その能力を十分に活用し、子どもの学びの環境をより良いものとし、子どもはいきいきと主体性をもって学び、その様子を見て、教師は次の授業の改善に結び付けていくという、学びの環境整備の好循環をこの利島で構築していきます。

②住宅の整備

続きまして、住宅の整備です。

島内の慢性的な労働力不足は、経済をはじめとした地域の様々な活動に大きな影響を及ぼしております。そこで、現在、2ヶ所で住宅整備を進めており、令和7年度には、集落の中心地である4番地1に移住定住促進住宅を含む6戸の供用を開始します。

また、久保里山においては、水不足への対応や発災時のレジリエンスを企図したものとして、水循環システムや太陽光発電設備を備えた8戸の住宅の整備を鋭意進めており、令和8年度中の供用開始を目指しております。

③インフラの整備

続きまして、インフラの整備です。

一般廃棄物焼却施設については、適宜の延命化に加え、住民の皆様の資源ごみの分別に対する多大なるご協力により、運営しているところです。早期の更新が必要である状況に変わりはなく、この間、情報収集や検討を行ってきましたが、来年度はこれらに基づき、着工に向けた事前準備や調整を行い、早期更新に向けて一歩でも多く、進めていきます。

水道の管路や設備についても、その多くが昭和 50 年代に整備されたものであり、早期の更新が必要です。管路の更新に際しては、耐震性が高く、腐食がない素材の管路に切り替えていきます。また、雨水の外、地下水の活用も重要な本村において、脱塩設備の更新も必要であり、来年度は設計を実施します。

④医療福祉

続きましては、医療福祉です。

医療については、精神科に関する相談が増え、より専門的なケアが必要な傾向にあることから、従来の精神一般相談に加えて、精神科の専門診療も行います。

また、内地に比較し医療資源が乏しい島において、予防に取り組んでいくため、帯状疱疹ワクチンや高齢者肺炎球菌ワクチン、インフルエンザ予防の無料接種を引き続き実施していきます。

福祉については、この 3 月に「子ども家庭支援センター」から「こども家庭センター」に移行し、児童福祉と母子保健の一体的相談支援を行う窓口として機能強化を図っていきます。

また、社会福祉協議会において、老人会の事務局機能を担い、会員の相互の親睦を深め、健康増進を図っていきます。

⑤産業振興

続きまして、産業振興です。

椿産業においては、従事者の確保が課題となっており、作業負担が大きいことが

その要因となっています。そのため、新しい人が参入しやすいよう、若しくは既存の農家の皆様が引き続き従事できるよう、生産性の向上は重要です。そこで、自動草刈り機やドローンによる農薬散布等について、今年度までの実証の成果を踏まえ、早期の実装化に向けて、取組を深化させていきます。

漁業においては、黒潮の大蛇行の影響により、水揚げされる魚種に変化が生じており、このような環境の変化に対応する漁業振興を目指していくことが重要です。そのため、既存の施設を改修して、利島の近海で獲れる魚を加工・商品化をするための施設を整備していきます。

また、令和7年度から東京都農林水産振興財団栽培漁業センターの協力により、漁協において貝類の養殖実証事業が実施されますが、村としても必要なサポートを行っていきます。

⑥防災対策

最後に防災対策です。

住民の生命・財産を守ることは、行政に課された最大の使命の一つです。利島は厳しい自然環境の下にあり、災害の脅威に晒されています。そのような環境にあるからこそ、各地で猛威を振るう自然災害を対岸の火事とせずに対峙して、必要な装置を備えながら、災害に対する高い意識を持ち続けることが必要です。

今年度は、役場職員に加え、島内の公共機関や事業者も参加対象とする、南海トラフ地震対策訓練を実施して、村・都・事業者の連携や発災対応等の確認を行い、多くの教訓を得ることができました。

来年度も引き続き、都や島内事業者等との連携の下、訓練を実施して、いざというときのオペレーションの改善を図り、島の防災対応力を高めていきます。

私の任期の最後の年となる令和7年において、公約で掲げた持続可能な利島の実現に向けて効果的に事業を展開できるよう、その必要経費を計上し、丹精を込めて予算編成を行いました。

利島を取り巻く課題を解消し、明るい未来に向けて、その歩を着実に進めていくためには、皆様のご理解とご協力が何よりも必要不可欠です。

最後になりますが、より一層のご指導ご協力をお願いいたしまして、私の所信の表明とさせていただきます。